

# 令和6(2024)年度 事業報告書

## NPO 法人森からつづく道

### I. 概要

当団体は、2016年度よりオオキトンボをシンボルとして北条地域の里地の生物多様性の保全活動に取り組んでおり、2017～2019年度と2020～2022年度の2期にわたって地球環境基金の助成によるプロジェクトを実施した。2023～2024年度は、羽化殻調査・産卵調査・水位計測を継続した。2017年からの調査の結果、オオキトンボの生活史やため池の水管理が発生に大きく関係しているなど多くの知見を得たところであるが、調査を継続して発生状況を把握するとともに、変化の要因の分析を行っている。本種の生息環境の維持のため、ため池管理者に対し、その年度の発生状況の報告とともに、生息に資するため池管理を説明し、協力を依頼している。当団体としても、ため池管理に貢献するため、堤体の草刈りに参加した。本種が最も多く発生しているため池に隣接する河野小学校の3年生を対象に、7月11日に生活史の解説とヤゴの飼育・羽化観察を、10月16日に産卵観察会を授業として実施した。さらに、本年は松山市自然環境イベントとして、市民対象の産卵観察会を11月4日に行った。また、フジテレビの取材に協力し、「地球との約束」で本種の生息状況が放映された。

2024年度は愛媛県「三浦保」愛基金環境保全・自然保護分野に、「訪ねたくなる水源の森・里づくり」を申請して採択され、松山市日浦地区において①ヒメユリの保全活動、②ミツマタの植林、③水源となっている石手川上流部の水生生物観察会を実施するとともに、④学習会「森林のリアルとポテンシャル」を開催した。

ヒメユリは4月に日浦中学校3年生の指導で同小学校1年生が播種した。その後、順調に発芽・生育し、7月に苗を鉢に移植、夏休み中は自動灌水装置を設置し、冬の間は越冬対策を行った。その結果、同校において25株が2年目を迎えた。また、同地区水口町のNPO「里山歩こう会」もヒメユリ栽培に着手し、保全体制づくりが進んだ。日浦地区での活動は、本年度が初年度であったが、地元の小中学校、NPO、公民館等の協力を得て、地域の資源を活用した活動を模索することができた。

2024年度は、(株)イーエーシー(松山市)が松山市から自然環境イベント等業務を受託し、当団体は同社からの要請を受け、野外イベントとして「ライトトラップ昆虫観察会」、「オオキトンボの産卵観察会」「道後公園で野鳥観察!」「野草を味わう春散歩」を、室内イベントとして「椿クラフト」を企画・運営した。

サイエンスカフェえひめは、第42回:4月9日「まつやまコアジサシ子育て支援プロジェクトって?」(松田久司氏)、第43回:7月30日「恐竜研究入門～発掘から展示まで～」(鰐本武久氏)、第44回:2月18日「ダニの話」(石川和男氏)を実施した。

日本農業遺産「愛媛・南予の柑橘農業システム」については、愛媛県の依頼を受け、世界農業遺産申請のために、農業生物多様性調査、民俗・歴史調査などを行った。

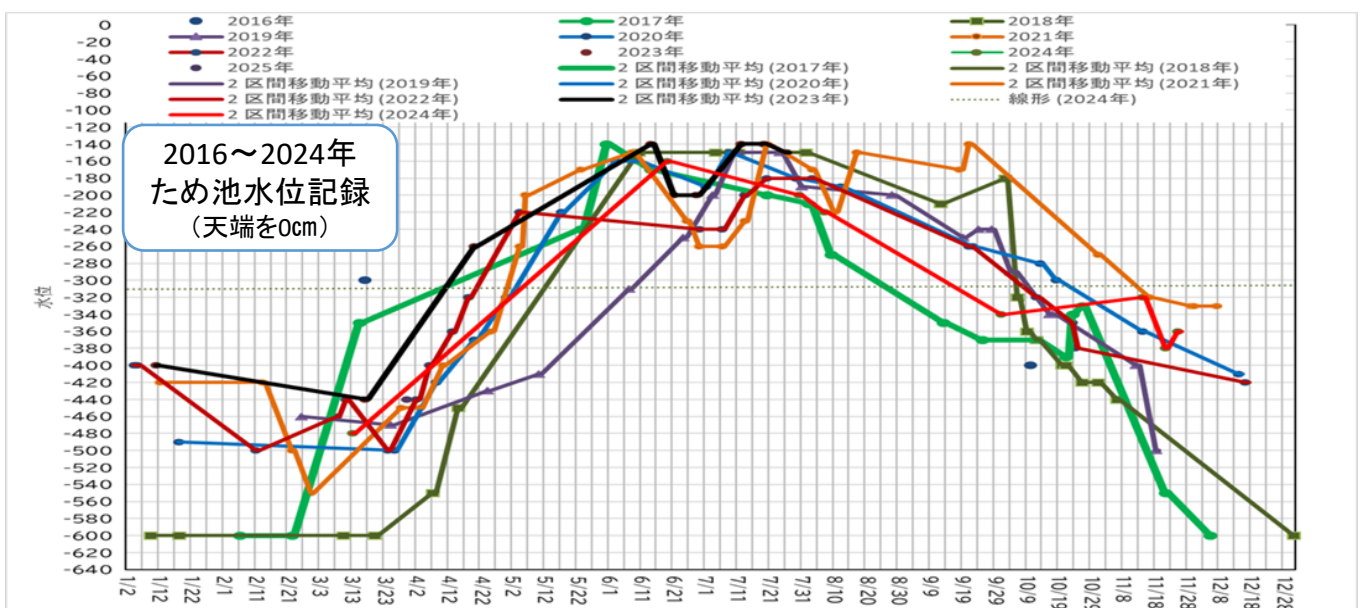
#### 【運営した主な事業】

- 1 オオキトンボ保全プロジェクト
- 2 サイエンスカフェえひめ
- 3 松山市自然環境イベント等業務((株)イーエーシーから受託運営)
- 4 「訪ねたくなる水源の森・里づくり(松山市日浦地区)」
- 5 「愛媛・南予の急傾斜地農業システム」農業生物多様性等調査・研究業務
- 6 その他必要とする事業



## 1. オオキトンボ保全プロジェクト

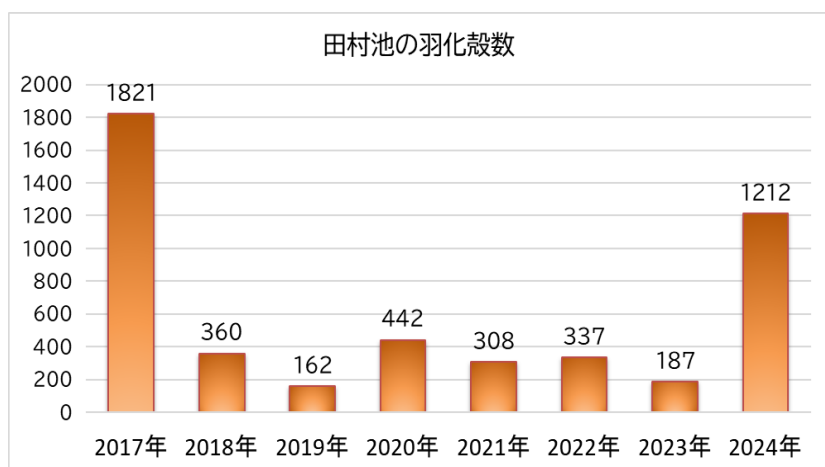
(2) 10月27日 8時～10時(松井)





## 1. オオキトンボ保全プロジェクト

### ●7年ぶりに大量発生を確認



羽化殻調査では、6月上旬から8月末までの毎週水曜日に、設定した調査区においてトンボの羽化殻をすべて採取し、種別に分類して数をカウント。羽化殻は同定確認のために、↑こんな感じで保存しています。

上のグラフ「田村池の羽化殻数」のとおり、2017年は田村池の調査区における本種の羽化殻数は1800個を超えていたが、2018年以降は500個を下回る状況が続いていた。2018年は、法面の一部ブロック化工事の影響により、春の貯水開始が遅れたことが主な要因と推測されたが、その後も目立った回復は見られなかった。

2024年は7年ぶりに本種の発生数が多く、採取した羽化殻数が1200個に達した。その要因の特定は難しいが、前年9～11月にため池の水位の低下が順調であり、産卵が広範囲に行われたこと、ため池の貯水が3月中に開始され、水位の上昇が順調で本種の卵の孵化が進んだことなどが考えられる。

### ●2024年度も河野小学校3年生がオオキトンボを学習



7月11日 本種の生活史やヤゴの特徴を説明



ヤゴの実物を観察。ギンヤンマのヤゴもいて違いがわかった



10月16日 産卵の様子を観察。目の前に飛んできた！



当日は学校の了解を得てフジテレビ「地球との約束」の取材があり、後日放映された



## 2. サイエンスカフェえひめ

自主事業として発足当初より実施。2024年度は愛媛大学のリージョナルcommonsあるいは、愛大ミュージアムを会場に、3回開催した。

第43回 サイエンスカフェえひめ

### まつやま コアジサシ 子育て応援 プロジェクトって？

日時 令和6年  
4月9日(火)  
19:00~20:30

会場 愛媛大学 松山市文京町3番  
E.U. リージョナルcommons  
「ひめテラス」1階

対象 自然に関心がある方30人  
参加無料



【お申し込み】  
お名前、住所(市町まで)、e-mailアドレスを、下記e-mailアドレスにお知らせください。  
今回はオンラインではなく、会場のみの開催です。  
■NPO法人森からつづく道(松山市鉄砲町1-7)  
e-mail: info@morimichi.org  
※デコイの色塗りに必要なものは当方で準備します。  
※当日参加歓迎ですが、準備の都合上、事前申込みにご協力ください。  
※個人情報保護法に基づき、当事業関係の連絡にのみ使用します。  
【主催】NPO法人森からつづく道  
【後援】愛媛大学ミュージアム



コアジサシという遠くまで飛ぶ鳥がいて、海岸の車の生えていない場所まで子育てをします。しかしそのような場所が減ってきているので、環境省でも愛媛県でも松山市でも絶滅の危険性があるとされており、この鳥に「松山衛生ecoセンター」で子育てしてもらおうというプロジェクトを始めています。

コアジサシは、大勢集まって子育てする「コロニー」を形成するので、「デコイ」とよばれる実物の模倣を設置し、なかまがすてにるように見せる作戦です。色塗りに、コアジサシがどのような鳥なのか、どのような取り組みをしているのか、お話をします。



◆話題提供 松田久司さん

主に、鳥類関係では「日本野鳥の会愛媛」として、身近な生きもの関係では「かわくそ復活プロジェクト」として活動している。環境省の環境カウンセラーでもある。2006年に八幡崎山にタナシする。それまでは、横浜自然観察の森で活動していた。そこには(公認)日本野鳥の会の職員が常駐しており、そこで鍛えられる。



### ■第42回 まつやまコアジサシ子育て応援プロジェクトって？

【日時】令和6年4月9日19:00~20:30

【講師】松田久司(日本野鳥の会愛媛会長)

コアジサシがどのような鳥かについてと、本プロジェクトの概要説明の後、参加者がコアジサシのデコイに色を塗る作業を行った。当日の様子と後日行われたデコイの設置の様子が新聞で紹介された。

第43回 サイエンスカフェえひめ

### 恐竜研究入門 ～発掘から展示まで～

日時 令和6年  
7月30日(火)  
19:00~20:30

会場 愛媛大学 松山市文京町3番  
愛大ミュージアム(ミュージアムがある建物)  
1F ミュージアム多目的室

対象 自然に関心がある方30人

参加費:300円、高校生以下100円

【お申し込み】

お名前、住所(市町まで)、e-mailアドレスを下記e-mailアドレスにお知らせください。今回はオンラインではなく、会場のみの開催です。

■NPO法人森からつづく道(松山市鉄砲町1-7)  
e-mail: info@morimichi.org  
※当日参加歓迎ですが、準備の都合上、事前申込みにご協力ください。  
※個人情報保護法に基づき、当事業関係の連絡にのみ使用します。

まず恐竜とは何かを説明し、モンゴルゴビ砂漠での恐竜化石の発掘調査から、化石の展示会までの流れをお話しします。



◆話題提供 舘本武久さん

愛媛大学大学院理工学研究科 教授 舘本武久さん。京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。京都大学博士(理学)。専門は環境哺乳類の古生物。主に、モンゴル・モンゴル・タイ、日本などでの脊椎動物化石の発掘調査・研究をおこなった。最近では、ケニアの哺乳類化石を調べている。



【主催】NPO法人森からつづく道 【共催】愛媛大学ミュージアム

第44回 サイエンスカフェえひめ

### ダニの話し

日時 令和7年  
2月18日(火)  
19:00~20:30(開場18:30)

会場 愛媛大学 松山市文京町3番  
E.U. リージョナルcommons  
「ひめテラス」1階

対象 自然に関心がある方30人  
参加費:300円、高校生以下100円

節足動物門クモガタ綱に属するダニは、古生代デボン紀に出現し、地球の陸域・水域に拡散し、多様な環境に適応して進化、繁栄しています。世界で5万種以上が記載(実際にはその10倍以上)、日本で2000種以上が記載(実際にはその倍以上)されています。欧米ではダニをtick、それ以外のダニをmiteと区別します。ダニは落葉・落枝を分解し(ササラダニ)、微小動物を捕食して(トゲダニ)、生態系の物質循環に重要な役割を果たしています。ヒトを含む動物や農作物・食品に被害を及ぼす種類は極めて少数にすぎませんが、ヒトへは感染症の媒介、喘息のアレルゲン、皮膚炎、吸血などの被害を及ぼします。



ニキビダニ 体長:0.3mm



◆話題提供 石川和男さん

松山東雲女子大学名誉教授、日本鳥類保護連盟専門委員、理学博士、トゲダニ類の新種130余種を記載。ダニ学、土壌動物学、野鳥生態学。著書に『日本ダニ類図鑑』(共著)、『日本産土壌動物』(共著)、『四国野鳥』(共著)、『危険な動物植物』(単著)、『愛媛県RDB』(共著)、『松山市RDB』(共著)など。日本の国立公園、東亜アジア各地の学術調査団に参加。日本土壌動物学会賞受賞、日本ダニ学会名誉会員。

【お申し込み】  
お名前、住所(市町まで)、e-mailアドレスを下記e-mailアドレスにお知らせください。

■NPO法人森からつづく道  
e-mail: info@morimichi.org  
※当日参加歓迎ですが、準備の都合上、事前申込みにご協力ください。  
※個人情報保護法に基づき、当事業関係の連絡にのみ使用します。

【主催】NPO法人森からつづく道  
【共催】愛媛大学ミュージアム



【写真】①キョウジョウコバネダニ 体長:約0.7mm  
②ヤクホウビダニ 体長:約0.3mm  
③アブラコバネダニ(チーズダニ) 体長:0.45~0.7mm  
④イエダニ(ダ) 体長:約0.7mm



### ■第43回 恐竜研究入門～発掘から展示まで～

【日時】令和6年7月30日19:00~20:30

【講師】舘本武久氏

(愛媛大学大学院理工学研究科教授)

恐竜とは何かの説明があり、モンゴルゴビ砂漠での恐竜化石の発掘調査のリアルな状況がや、化石の展示会などのお話があった。

### ■第44回 ダニの話し

【日時】令和7年2月18日19:00~20:30

【講師】石川和男氏

(松山東雲女子大学名誉教授)

ダニは多様な環境に生息し5万種が記載されており、食性も多様であること、身近なダニの特性などが解説され、予防等のお話しもあった。



### 3. 松山市自然環境イベント等業務

松山市民の自然環境への意識の高揚を図り、環境保全に参画する市民を増やすことを目的とする市の自然環境イベント等業務を(株)イーエーシーが受託し、10回程度のイベントのうち、当団体が5回分について企画と講師・運営を担当した。同社は広告代理店で、イベント運営や情報発信には実績があるが、自然環境分野では経験がなく、市内の活動団体と協働で事業運営が行われた。参加募集と参加者とのやり取り、アンケート実施は市担当課と同社が担うなど、役割分担が進み、当日もイベント運営に専念することができた。担当者とのやり取りもスムーズであった。また、生きものの関係のInstagram記事・写真提供、りっくるだよりの原稿作成も本業務の一環として担当した。

イベント名/●講師	実施日/場所	参加数
ドキドキ夜の昆虫観察 ライトトラップ@日浦 ●武智礼央、橋越清一	8月3日(土) 日浦公民館～水口町段畑	19名 (小学生7名)
希少アカトンボ、オオキトンボの産卵を観察しよう！ ●武智礼央、豊田康二	11月4日(土)10:00～12:00 北条ふるさと館～田村池	31名 (小学生15名)
道後公園で野鳥観察！ ●橋越清一	1月26日(日)9:45～11:45 子規博物館～道後公園	23名 (小学生5名)
椿神社で椿クラフト ●豊田康二、松井宏光	2月22日(土)10:00～12:00 椿神社	13名 (小学生1名)
野草を味わう春散歩 ●松井宏光、黒河由佳	3月16日(日)10:00～13:30 日浦地区、水口集会所	19名 (小学生6名)



8/3 ライトトラップ



11/4 オオキトンボ産卵観察会



1/26 道後公園で野鳥観察！



2/22 椿神社で椿クラフト



3/16 野草を味わう春散歩



## 4. 「訪ねたくなる水源の森・里づくり(松山市日浦地区)」

松山市日浦地区は、石手川ダムの水源地の森を有し、希少なヒメユリや水生生物が生息するなど、保全すべき自然環境があり、環境学習・体験の適地である。しかし、人口減少により里地・森林の管理が進まず、イノシシやシカの獣害の拡大が懸念される状況である。そこで、同地区の里地～里山～森林の整備に県民が関われるプロジェクトを立ち上げることで、水源の森への関心を高め、水の涵養、土砂くずれ等の低減、生物多様性の保全など、里地や森林が多面的機能を維持・回復することを目指すプロジェクトを計画し、愛媛県「三浦保」愛基金の助成を受け、活動を開始した。

同地区の地元NPO「里山歩こう会」が子どもたちに農業体験を提供したり、サクラの植樹を行うなど、熱心に活動を行っているため、連携して事業を展開した。ヒメユリの保全活動は、日浦小中学校が担ってきたが、先生の異動によってノウハウの継承が困難であったところ、本事業により、当団体の支援と「里山歩こう会」による育苗を開始し、地域での保全体制が進んだ。

2024年は初年度であることから、同地区の関係者との関係づくりや地域資源の把握に注力し、以下の活動を行った。

### (1) ヒメユリ保全活動

月/日	内容	参加者	概要
4/9	ヒメユリの保全状況の把握	日浦中学校、松山市環境指導課2名、里山歩こう会松野氏、松井、黒河	日浦中学校を訪問して確認したところ、昨夏に開花して結実した種は種まきに十分な数があるが、開花した株の球根の保存状況が良くなく、残存は3個程度。松山市の希少種保全担当課にも現状把握のために参加していただいた。
4/25	種まき	日浦中3年9名、日浦小1年6名、松野氏、松井	種まきは同小・中学校の恒例行事。数量としては、コンテナ5個分（1個に30程度播種）となった。地元NPO「里山歩こう会」がヒメユリの種を分けてもらい、学校と並行して苗づくりに取り組むこととなった。
5/17	発芽状況の確認	日浦中・日浅先生、松野氏、松井、黒河	日浦中では、5/15に発芽が確認された。1～2cm程度の1枚葉が出ている。コンテナをラップで覆って保湿・保温を施したことが効果的であった。水やりは3日に1回程度、ラップの水滴がなくなったら行う。
6/7	生育状況の確認	日浦中・日浅先生、松野氏、松井、黒河	気温が上昇してきたため、育苗のコンテナを体育館西側から風通しがよい東側に移動させた。葉はまだ1枚。
7/5	生育状況の確認	日浦中・日浅先生、松野氏、松井、黒河	葉は2枚・3枚の苗が増えた。
7/17	苗を鉢に移植	日浦中3年生7名、日浅先生、松野氏、松井、黒河	コンテナから1鉢に苗を1本ずつ移植した。62鉢となった。作業時間はちょうど1時間程度であった。鉢と用土の一部は学校にあるものを使用した。数日後、移植した鉢の2割程度は根の活着が悪く、枯れてしまったとの連絡があった。
7/19	四国カルストでヒメユリ生育環境の観察	当団体会員5名、松野氏	大野ヶ原の源氏ヶ駄馬周辺を観察し、ヒメユリの開花を確認した。石灰石の岩場に広がる30～50cm程度の草丈の草原に点在し、50cm程度の高さに生育して花を付けていた。春までは草原の草丈は低いいため、それに先立つように茎をのばしているようである。
7/24	自動灌水装置および寒冷紗の設置	松井	日浦中では校区外から通学する生徒が大多数で夏休み中の水やりが難しいため、自動灌水装置を設置した。また、強い日差しをやわらげるために寒冷紗を設置した。
8/18	自動灌水装置の点検・補修	松井、松野氏	自動灌水装置の作動を確認し、補修を行った。苗は葉の数は増えていないが、生育状況は順調である。
9/5	寒冷紗の取り外し	松井、松野氏	日の当たる時間が少なくなったため、寒冷紗を取り外した。
10/5	苗の成長状況確認	松井	生育状況には大きな変化なく、順調である。
11/19	四国カルストでヒメユリの種を採取	松井、黒河	本年、日浦中ではヒメユリの開花がなく、種ができなかったため、四国カルストのヒメユリの種を採取した。令和7年4月の種まき用。
12/24	苗設置場所移動、手入れについて打合せ	日浦中・日浅先生、松野氏、松井、黒河	冬場になり、地上部が枯れているが、比較的寒さには強いいため鉢は戸外に設置のままとし、もみ殻を鉢に入れ、乾燥したら水を少し与える管理を行う。



## 4.「訪ねたくなる水源の森・里づくり」

### (2)ミツマタ植林

【日 時】令和6年11月12日(火)10:30～15:00

【場 所】日浦地区 水口集会所、森林、竹林、耕作放棄地

【講 師】豊田信行氏(森林環境管理学リカレントプログラム講師)

【参加者】松野氏(里山歩こう会)、当団体関係者7名

ミツマタ植林の場所として想定していたスギ林は、間伐作業の時期が確定しないことから、耕作放棄地となっている畑に所有者の了解を得て行った。実施にあたっては講師を招聘し、ミツマタ植林と森林整備の考え方と技術指導、竹林の拡大防止方法などについて受講した。その後、日浦地区内で竹林をクヌギ林に転換した場所を視察し、ミツマタの苗木80cm4本、30cm8本を植林した。



7/5 ヒメユリの苗



7/17 苗を鉢に移植

### (3)石手川上流 川の生きもの観察会

【日 時】令和6年8月24日(土)10:00～12:00

【場 所】日浦公民館集合～東川町納涼台周辺の石手川

【講 師】松田久司氏

(かわうそ復活プロジェクト、愛媛県環境マイスター)

【運 営】松野氏(里山歩こう会)、当団体3名、愛大理学部生2名

【参加者】27名(運営者含む)

実施要領・注意事項の説明の後に川に入り、生きもの探しを行った。川から一度上がって納涼台に集合して休憩。その後、再度川に入って生きものを採取し、納涼台で解説を受けながら観察した。22種を確認することができ、水質がとても良好であることが確認できた。また、周りの森林が水を育てていることを実感する機会となった。



11/12 ミツマタ植林



8/24 石手川の生きもの観察会

### (4)学習会「森林のリアルとポテンシャル ～いろんな視点から地域の森林を捉えよう～」

【日 時】令和6年12月8日(日)13:00～16:00

【会 場】えひめ森林公園(伊予市)研修室

【運 営】当団体4名

【参加者】34名(運営者含む)

【内 容】

●講演「愛媛の森をみんなでモリアゲよう！」

長野麻子氏(株式会社モリアゲ代表)

●事例報告「伐採から製材、建築へ山から生み出す新たな流れ」

森本英章氏(杣-ウッズ代表、木こり)

●意見交換・交流

森林に何らかの接点のある方々を対象に森林の多面的機能、木材等の活用の魅力的な事例、森林資源活用を支援する施策など、最新の知見を共有し、「どういう森林にしていきたいか」をイメージする機会として企画・実施した。全国的に森林や木材の利用を推進するためのアドバイスを展開している講師を招聘することができ、県内各所の森林の活用について関心のある方々の参加を得た。

意見交換・交流の時間は、参加者全員が自己紹介を行い、講演および事例報告に対する質疑応答の後、国産材・地域材の利用促進について意見交換を行った。



12/8 森林のリアルとポテンシャル



意見交換・交流は車座で

## 5. 「愛媛・南予の急傾斜地農業システム」農業生物多様性等調査・研究業務

「愛媛・南予の柑橘農業システム」は2019年度に日本農業遺産に認定されている。2022年度に愛媛県は世界農業遺産を申請したが国内審査で不採択となった。そこで、「宇和海沿岸の急傾斜地における農業と漁業が育んだ景観形成・保全システム」として構成を変えて、2026年度に再度申請する方針となり、愛媛県農政課より、当団体に対して2023年度に引き続き2024年度も、宇和沿岸の急傾斜地石積み農業の農業生物多様性の有効性ならびに、同農業の歴史と沿岸漁業との関係等について基礎的資料の作成が委託された。調査員は宮本春樹、橋越清一、徳岡良則、松井宏光の4名である。

調査研究の結果は報告書として提出したが、その項目は以下のとおりである。

### ① 宇和海沿岸における柑橘園・海面養殖場分布図(試案)(宮本春樹)

### ② 愛媛みかん発祥地吉田町立間白井谷調査(宮本春樹)

### ③ ふれあい魚ツチング視察報告

### ④ 気候と地形に応じた宇和海の柑橘栽培(宮本春樹)

### ⑤ 宇和海の石垣集落(宮本春樹)

### ⑥ 狩浜の石灰岩石積みシステム(宮本春樹)

### ⑦ 愛南町外泊「石垣の里」調査報告(宮本春樹)

### ⑧ 魚つき保安林の文献調査(宮本春樹)

### ⑨ 宇和海沿岸の風土(宮本春樹)

### ⑩ 令和8年世界農業遺産申請書(案)(宮本春樹)

### ⑪ 狩浜(西予市明浜町)における鳥類調査報告2024(橋越清一)

(概要) サシバは繁殖や幼鳥(写真)が確認できた。ノスリやハイタカは狩りの様子が記録された。その他、ミゾゴイ、ハチクマ、クマタカ、オオタカ、ハヤブサなどを記録され、狩浜地区のミカン園地の生物多様性の豊かさを示すものとなった。

### ⑫ 由良半島における鳥類調査報告2024秋(橋越清一)

(概要) 9月～10月の16日間にわたる定点調査で、60種の鳥類を記録し、サシバ、ハチクマ、ノスリなどタカ類、ヒヨドリやソウシチョウなどの渡りが記録された。サシバなどタカ類は由良半島の急傾斜地の斜面上昇流を利用して高度を上げて効率的に渡ることができるといえる。

### ⑬ Stone retaining walls serve as refugia for diverse life-forms and threatened plant species in a coastal orchard landscape in western Japan(徳岡良則)

(概要) 石積み擁壁には多様な植物群集が形成されている。また着生シダを含む7種の希少種(ヒメウラジロ、イヌノフグリ、ツメレンゲなど)が確認され、石積み擁壁の生態学的重要性が明らかとなった。これらの擁壁は、多様な生息環境に適応した植物種の避難場所として機能する独特のマイクロハビタットを提供している。



サシバの幼鳥



タカ柱



ヒメウラジロ



## 6. その他必要とする事業

### ■風早にぎわいレトロまつり出店

【日 時】令和6年10月27日(日)9:30～15:00

【会 場】河野別府公園

動物フィギュアを使ったジオラマ、植物のハーバリウム、キャラクターどんぐり、リアルトンボ・蝶、木の実標本額縁など、自然素材を使ったクラフづくりを提供、いずれも好評であった。



### ■松山総合公園賑わい創出事業の実施

松山市公園課から依頼を受け、総合公園にて3回にわたり「生き物ふれあい教室」を実施した。



7/28 夏の昆虫編



9/29 秋の鳴く虫編



11/3 森の工作教室

## Ⅲ. 組織運営

### 1. 意思決定

事業の企画申請にあたっては、各事業に関係する会員が打ち合わせを行った。2024年が初めてのケースとなった、松山自然環境イベント等業務は5回実施したが、(株)イーエーシー担当者とは、Zoomによるオンラインで打合せを行い、当日スケジュールや役割分担を円滑に行うことができた。

4月11日と9月13日に理事会を開催し、事業計画ならびに松山市自然環境イベント業務の応札についての検討、各事業の進捗の情報共有などを行った。

### 2. 情報発信

#### 【イベント情報】

HPIにおいて、「サイエンスカフェえひめ」(3回)、「石手川上流域 川の生きもの観察会」「森林のリアルとポテンシャル」の告知を行った。同内容はfbにも掲載した。また、チラシを作成し、関係者が手配りする他、まつやまNPOサポートセンター、愛媛県生涯学習センターなどに設置した。

#### 【生きものごよみ】

生きものの活動を紹介することにより、その生態や生態系に興味を持ち、季節の変化を感じてもらう目的で発信を行っている。

#### ■掲載回数

生きものごよみ	149
サイエンスカフェ	3
イベント情報 (SC以外)	2
その他 (今治市環境保全功労者表彰受賞)	1
Fbによる告知等	5

### 3. 令和6年度今治市 環境保全功労者表彰を受賞

「地域、学校、企業が連携し、織田ヶ浜海岸の海岸清掃活動をはじめウンランなどの希少植物等の保護活動を通じ、環境行政の推進に貢献されている」という内容で、今治市より環境保全功労者表彰(団体等)をいただきました。

